



一斉法要のじ報告

【平成二十五年】

盂蘭盆施食法会 六月二十八日、二十九日

法話 光真寺住職 黒田泰弘師

二日間にわたる盂蘭盆施食供養。初日は初盆供養。翌日は檀信徒の方々の供養を午前と午後に分けて二座をお勤めしました。

本寺光真寺住職の黒田泰弘師に二年続けてご法話いただきました。ご法話の最後にみんなで「有難うございます」と十回のお唱えさせて頂き、心あたたまるお話が、さらに胸に染み入るようでした。

—ニュース・アラカルト—



秋彼岸法会 九月二十日

法話 長泉寺住職 水庭浩章師

午前・午後あわせて六百名の方が、心に菩提の種を蒔きに参拝されました。

冒頭、善光寺留学僧育英会の第二十四回育英生・樋口星覚師より、檀信徒の皆様にお礼の挨拶がありました。師は現在ドイツに在住し坐禅堂を開くなど活躍されています。

ドイツでの布教の難しさを述べつつも、困った時には皆様の事を思い出し、応援してくれる人がいると思うと力が湧いてきますと、感謝の言葉を口にされました。

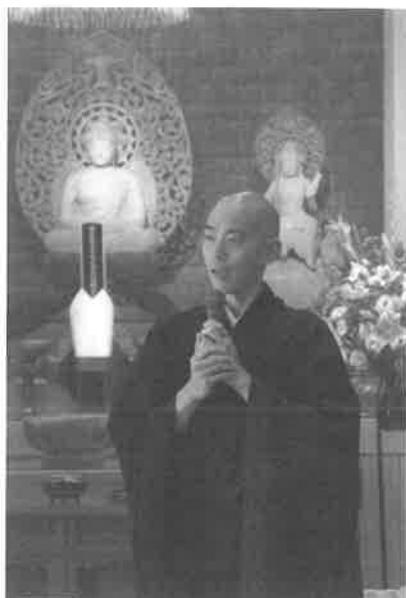
檀信徒の皆様の尊い淨財が若く有望な人材を育てて下さっています。心から心へ、皆様のご理解・ご協力に心より篤く深く感謝申し上げます。

水庭師の法話は34ページをご覧ください。

— ニュース・アラカルト —



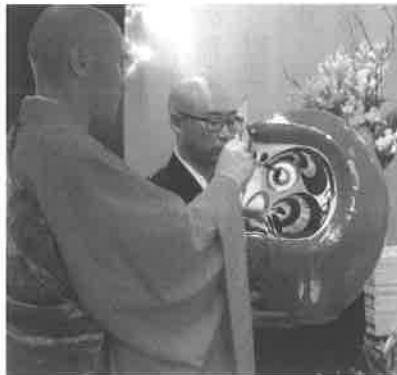
水庭浩章師



樋口星覚師

【平成二十六年】

新年祈祷会 一月九日



法話 当山住職

昨年から始まつた、善光寺講座『論語からのお話』に因み、今年の目標は学習ですと宣言。

子曰く、学びて時に之を習う、亦悦ばしからずや。朋とも遠方自り来る有り、亦楽しからずや。人知らずして、懼らず、亦君子ならずや。

—ニュース・アラカルト—

節分追難法会 二月三日

善光寺総代 東郷敏氏

節分に因み暦の「二十四節季」。

大自然の摂理、地球の自転や子午線・黄道や大円などについてユーモアを交えて説明して下さいました。

ご祈祷の後は恒例の豆まき。魁聖閻らによる豆まきも今年で三年目。今年は特別に友綱部屋の力士衆による、ちゃんとこ鍋も振舞われました。

「福はうち！」この一年皆さまに障りなく厄除け、招福ご多幸をご祈念致しました。

(写真は巻頭のグラフページをご覧下さい)

春彼岸法要 三月十九日

法話 觀音寺住職 黒田法正師

四月に予定されている伊勢神宮参拝旅行に因み、ご自分の師匠である光真寺先代住職黒田俊雄老師と参拝した時のエピソードを話して下さいました。

神前、神様の前でも大きな声で般若心経を唱えられた師匠との想い出を語り、今度の参拝には「是非、一緒に『般若心経』をお唱えしますよう」と誘われていました。

続いて廻向の後にお唱えする「略三宝」についてのお話。皆さま一緒にひと際大きな声でお唱えをして法要が結ばれました。

十方三世一切仏

諸尊菩薩摩訶薩

摩訶般若波羅蜜

ニュース・アラカルト



震災義捐金の御礼



震災直後に皆さまからお寄せ頂いた東日本大震災被災者義捐金につきましては、曹洞宗ボランティア（SVA）を通して現地に寄付させて頂きました。

善光寺では継続しての支援を続けたいと思っております。その一環として先日、皆さまよりお納め頂きました「護持会費」の一部を今年も神奈川新聞厚生文化事業団を通し日本赤十字社へ寄付させて頂きました。

個人の支援も含め寺としての支援も継続して行つて参りたいと思います。

ご報告と併せ、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

—ニュース・アラカルト—



やすらぎの塔開眼式・

合同合祀慰靈祭



横浜やすらぎの郷霊園内に合祀施設「やすらぎの塔」が建立され、去る五月十二日、住職導師の下、「やすらぎの塔」開眼式と、合同合祀慰靈祭が執り行われました。

合同合祀慰靈祭では、やすらぎの碑より安置期間の経過した御靈をやすらぎの塔へ埋葬致しました。縁故者や関係者ら二十名を越す参列の中、一時間半にわたり、ねんごろなるご供養が當されました。

大きな供養塔の正面に「やすらぎの塔」と刻まれている文字は住職による揮毫。

桜の木々の間、やすらぎの塔と並び、やすらぎ観音さまが優しく微笑みかけて下さいます。

—二五一一ヌ・アラカルト—





常住院・加藤弘美様ご逝去



平成二十六年一

月二日、博志方丈
のご母堂倫子様の
お姉さま、加藤弘
美様がご逝去され
ました。

弘美様は福井県若狭郡三方、曹洞宗常住院に
生まれ育ち、ご主人である今の御住職加藤誠一
老師と共に永くお寺を護つてこられました。
善光寺の創成期にはよくお手伝い頂きまし
た。とても面倒見のよい方でお寺の裏方はもち
ろんの事、子供の頃より住職兄弟六人、とても
お世話になりました。

衷心より心からご冥福をお祈り申し上げま
す。

『追悼文』

ただ、ただありがとうございました。

黒田 博志

今年一月二日に伯母が他界いたしました。

その伯母は母の姉です。母は福井県の三方の
出身です。常住院という曹洞宗のお寺に二人姉
妹の妹として生まれました。その伯母がご主人
である今の住職さまと一緒にそのお寺を護つて
おりました。

伯母はとても面倒見のいい方でした。

私はご存知のように六人兄弟です。子どもの
ころは夏休みになりますと、母に連れられて兄
弟全員で母の実家に遊びに行つておりました。
それが毎年楽しみで、一週間から十日間くらい
お世話になつておりました。

午前中はお寺の本堂で宿題を伯母に教えても
らい、午後になると伯母にいろいろな所に遊び
に連れて行ってもらいました。海に行つたり、

溪流釣りに行つたり、ショッピングに行つたりしました。私たち兄弟を我が子のように面倒を見てくくれました。

私が成人し、永平寺での修行期間中、半年ほど吉峰寺というお寺に配属されました。このお寺は永平寺から車で三十分から四十分の所になりました。そこに配属されている時に、ある日突然伯母が励ましに来てくくれました。

そのお寺は山の上に在り、険しい山道を登らなければ来ることのできない場所にあります。階段が二百段近くあるのではないかという大変厳しい山道で、そこを両手いっぱいに差し入れのお野菜や果物を持って上つて来てくれたのでした。

本当に嬉しかったです。ありがたかったです。

これは伯母が、ただただ私のことを思つてし

てくれたことなのです。

思つても行動に移すことがなかなか出来ない事も多い中、伯母は、なんでもすぐに行動に移し、みなさんのお世話をしてこられました。福井訛りのイントネーションで少しせつかちに話すその言葉も、もう掛けられないと思うととても寂しい気持ちで一杯になります。

十年前、師父が遷化した朝も、年の暮れで常住院も忙しいのに泊まり込みで面倒を見てください、とても心強く感じた事を思い出します。

「大変な事になつたけど、みんなで助け合うから、ひろちゃん頑張つてなあ」と、何度も励まして頂きました。

母とは話し方も性格もちがう伯母でしたが、

寺族として住職を支え、寺を護るその信念の強さ、芯の通つたまつすぐな心は似ている姉妹だと感じます。

二ユース・アラカルト

亡くなる前の年の三月に横浜に来られた際に、私の子供をみてくれた時が、最期のお別れとなつてしましました。

伯母を思い出すとき、とりとめのない思い出が胸にあふれます。今はただ、ただありがとうございましたと感謝の言葉があるのみです。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。
ありがとうございます。

—ニュース・アラカルト—





33号

1 ハ	2 ナ	3 ミ		4 ウ	ツ	5 キ
6 ツ	バ	キ	7 ヒ	メ		ゴ
8 ハ	ナ	サ	キ		9 ハ	
ル		一		10 シ	ラ	11 キ
	12 イ		13 カ	リ	モ	ノ
14 マ	チ	15 ウ	ケ		16 チ	カ
17 ア	ズ	サ	ユ	ミ		ワ

答え ハナマツリ
(花まつり)

31号

1 サ	ン	2 キ	3 カ	4 イ		5 カ
ン		6 シ	ク	ハ	7 ツ	ク
ボ	サ	ツ		10 イ	イ	ネ
11 ウ	ン		12 ヒ		13 ト	ン
	14 ゲ	ン	ジ	15 ョ	ウ	
タ	モ		17 ア	キ		18 タ
19 ジ	ン	ム	テ	ン	ノ	ウ

答え ボダイノタネ
(菩提の種)

【クロスワードパズルの答え】